

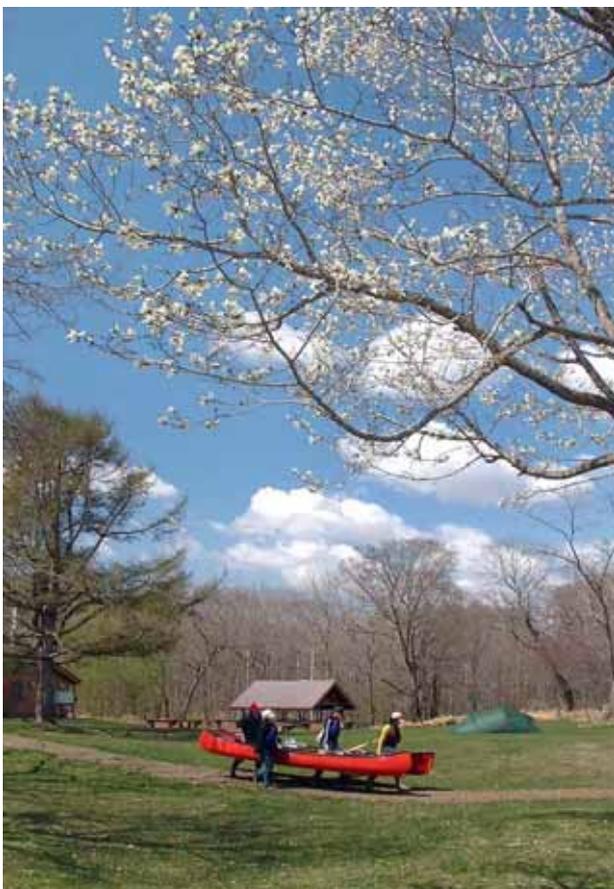
月刊やちまなこ

2011.5.15 発行

No. 162

5月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



五月に入っても寒い日が続き、ゴールデンウィークは峠の道路も雪の影響で閉鎖されたり、慣れない雪道の運転に気遣う旅行者もいたようだ。釧路湿原は新緑が鮮やかになり、キタヨシの芽が伸びる水辺ではエゾアカガエルのオタマジャクシが元気に泳いでいる。

上空をオオジシギが賑やかに飛び、すでに満開のキタコブシの花に誘われるように、エゾヤマザクラの花弁も開き始めた。

コッタロ川と湿原のほとりから

131 5月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)



季節がふた月逆戻りして料峭真っ只中にあったコッタロに、ようやくさわやかなそよ風のメヌエットがそこはかたなく心地好い三拍子を奏で始めたのはほんの2～3日前でした。

4月17日一番のりで渡来したノビタキ君にとって思いがけない寒さにうち震えて声も立てずにいたところ、日毎に増えて来た夏鳥のボーカリスト達に触発され、持ち味豊かなカデンツァぶりを発揮する気になった様です。又、美声の高音を得意とするアオジの君は、ウグイスの唱えるメリハリの効いた法華経

に追隨するかの如き歌いっぷりで、非常に面白くきこえてまいります。加えてアカハラの“キョロン、キョロン”とカワラヒワの“ズビビビーン”とが響き合う湿原は今、まさに「春らんまん」と云えましょう。

ところで今季早ばやと営巣を開始した丹頂のコツ&タロの番に19羽目のヒナー羽が無事に孵化し、順調に育てられています。名付けて一九さん(写真左上)。大洪水で結局一羽の命もとりとめることが出来なかった昨年の悪夢を払拭してくれてホッとしているところです。この一九さん、両親の愛情を一身に受けて父が呼べば“ハイハイ”と、あちらの母がエサを差し出せば“ホイホイ”と右往左往の大忙し。一方道越しの第2コツ&タロには、14、15羽目が元気に走り回って今年も二人っ子。一九さんより3日遅く生まれたにもかかわらず、すくすく伸びて、日中20になった日、とうとう水浴びで泥んこ顔になったのをお互いに笑い合ったり、母の背などで仲良くシンクロしたり、と観る人を完全に『可愛い症候群』に陥らせているではありませんか(写真右・左下)。又、夕暮れ時になると、親鳥よりも先に2羽が競うように、こけつまろびつし乍ら湿原の畔へと急ぐ姿も笑いを誘います。



さて、大地が目覚めるこの時季ならではの風景は、クロユリの子供達が親ユリの根っこから独立してびっしりと親を囲む様に一枚葉を発芽させ、緑のスカーフをふうわり広げた様に見えることです。同じように水辺を好んで生えるエンコウソウや猫ノ目草も各々独自の歩幅を保ちつつ、群落を形成しており、不思議なのは、その花の形と色で、ひよっとしたら夜半にそっと降り注ぐ月の雫の仕業ではないか、と思わせる黄色の色使いにメルヘンチックイエローと呼びたくなる花の面影。これらは両方共花期が長く、楽しませてくれる花達であることも嬉しいではありませんか。

北の大地に緑が爆発するのももうすぐ、樹木の若葉に合わせて野鳥のベビーラッシュが訪れる大自然の再生を心より祝福することが出来ますように!! (合掌)

湿原の住人たち その122

アカマダラ

アカマダラの幼虫が食草にするエゾイラクサが芽吹いてきた頃、タイミングよくひなたぼっこしているアカマダラ春型を発見。日本では北海道だけに生息するタテハ蝶の仲間です。季節によって別種かと思うほど斑紋に違いがあり、写真のオレンジと黒色が目立つ春型と黒褐色に白帯が入る夏型の2タイプあります。蛹で越冬する夏型から春型が生まれ、春型母蝶から夏型が産まれるという、子孫を残す為？の不思議なシステムにはどんな意味が隠されているのでしょうか。散策時にイラクサの葉を注意深く見てみましょう。ひよっとしたら卵や幼虫がいるかもしれません。



「フィールドウォッチング・野鳥のふしぎ」を開催しました。

14日、茅沼にある蝶の森周辺で「フィールドウォッチング・野鳥のふしぎ」を開催しました。集合場所の駐車場周辺から盛んに野鳥の鳴き声が聞こえ、初参加の方には双眼鏡の使い方を講師の長尾芳文さんから教わりながら、早速フィールドを散策しました。シラルト口湖は雨の影響で増水し、水鳥は余り見かけませんでしたが、アオサギや普段見慣れたトビの顔をフィールドスコープでアップにして観察しました。新緑の目立つ雑木林ではウグイスやセンダイムシクイ、エゾムシクイなど鳴声に特徴のある野鳥の声を聞いたり、上空高く飛ぶオジロワシや珍しく1羽で姿を現したヒレンジャクなど、22種類の野鳥を観察しました。



つぼっちの塘路周辺うろうろ日記 Vol. 56 「塘路湖」の本名？

先日陽気に誘われ、塘路湖の周りをのんびり歩きながら、この湖の事を改めて考えてみました。

塘路湖の語源はアイヌ語です。塘路は「トー・オロ」であり、「沼・の所」と訳されています。これはトウロコタン（沼の所の集落）を短縮した言葉とも言われています。江戸後期の文献には塘路湖をトウロトウと紹介しているものあり、塘路湖はその直訳かもしれません。なお直訳は「沼の所の（集落の）沼」となります。この訳は言葉が重複するなど不自然さを感じ、「集落ができる前から湖はあったはずなので、塘路アイヌの人々が呼んでいた本来の名前があるのかも...」と、以前から考えていました。その答えかわかりませんが、明治初期に豊島三右衛門と言う人が記した塘路湖のアイヌ語地名紹介には、「但（ただし）、トウロ此処大沼有（ここおおぬまあり）（中略）本名オニウシ也（なり）」と書かれています。ただ本当に塘路湖のかつての呼び名だったのか、今の所確認するすべがありません。新資料発見に期待したいところです。

坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）



6月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

夏鳥ウォッチング

[日時] 6/4 (土) 10:00 ~ 12:00

[定員・参加料] 15名・無料

[場所] シラルトロ湖・蝶の森 (集合は憩の家かや沼駐車場)

[持ち物] あれば双眼鏡

お申し込み お問い合わせは 塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

春の湿原花ハイク [日時] 6/12 (日) 10:00 ~ 12:00

お申し込み お問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(4/22)ミズバショウ・キジムシロ・エゾエンゴサク (4/26)レンブクソウ・エゾイラクサの葉 (4/29)キタコブシ (4/30)キバナノアマナ・フクジュソウの実・ギョウジャニンニクの葉 (5/8)エゾキケマン (5/13)エゾヤマザクラ

【鳥】(4/18)ノビタキ (4/22)オジロワシ・アオサギ・オオハクチョウ・ヒシクイ・ヨシガモ・ヒドリガモ・カワアイサ・ミコアイサ・キンクロハジロ・マガモ・コガモ・タンチョウ・チュウビ・アカゲラ・コゲラ・オオジュリン・(シマ)エナガ・シジュウカラ・ハシブトガラ・ヒガラ・ゴジュウカラ・カワラヒワ・トビ・ハシブトガラス・ハシボソガラス (4/24)アオジ (4/26)ハクセキレイ (5/3)ウグイスとオオジシギの声 (5/4)ツバメ・ショウドウツバメ・アマツバメ (5/6)エゾムシクイの声 (5/8)キジバト・アカハラの声 (5/10)ベニマシコ・ニューナイスズメ・雛連れのタンチョウ (5/14)ヒレンジャク・センダイムシクイ・セグロセキレイ

【その他】(4/16)エゾタヌキ・キタキツネ・エゾアカガエル (4/22)エゾアカガエルの卵・ミンク (4/24)エゾシカ (4/25)23 ~ 24 日の降雨による増水で道々クチョロ原野塘路線通行止め (4/26)エルタテハ (4/29)アカマダラ春型 (5/1)アメマス・ウグイ (5/8)ミンクの死骸・クジャクチョウ・エゾスジグロシロチョウ・シロジュウシホシテントウ

シラルトロ木道は、増水による浸水と一部破損のため5/9から閉鎖しています。

野生動物のためにもゴミのポイ捨ては絶対にやめましょう！

6月30日まで春期山火事発生危険期間です。山火事絶無のため野外での火気取り扱いには慎重に！

日出・日入時間 5/15(4:00, 18:38)・5/31(3:47, 18:53)・6/14(3:43, 19:03)



エゾヤマザクラ(5/14)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004

E-mail: emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00 ~ 17:00 (11月~3月は16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日~1月3日 入館無料